

# 第 1 回 東海地区学術データ基盤セミナー実施要項

## 日時

2022 年 12 月 2 日（金） 13:30～16:00

## 場所

名古屋大学 情報基盤センター 2 階 演習室

## 概要

東海地区を中心に、図書館、研究推進、教育推進、産学連携、大学 IR、情報基盤などの担当者が集まり、大学における学術データの管理・公開・利活用のあり方を議論する場とする。

## 内容

- **13:30～13:35 オープニング（趣旨説明など）**
- **13:35～14:00 松原 茂樹（名古屋大学）「学術データの全学的な基盤整備」**  
（概要）研究データや教育コンテンツなど大学構成員が生成・収集した学術データを、安全かつ効率的に管理し、利活用するための基盤（データポリシー、ルール・ガイドライン、情報基盤、支援人材、啓発プログラムなど）を、大学が整備し提供することが求められている。本講演では、名古屋大学における取り組み事例をもとに、大学における学術データ基盤整備の全学横断的な体制と推進の在り方について論じる。
- **14:00～14:50 古川 雅子（国立情報学研究所）「学術データ管理の人材育成」**  
（概要）国内外においてオープンサイエンスや研究公正，データ駆動型科学に対する関心が高まる中で，これまで各研究者や研究分野ごとに様々な方法で行われてきた研究データ管理は，学術機関において支援体制を整備し，整備した研究データについて周知し，その利用促進を行うことが期待されている。本講演では学術機関において研究データ管理支援業務を担う人材育成に関する取り組みについて紹介する。  
(休憩)
- **15:00～15:50 西岡 千文（国立情報学研究所）「学術データのオープンアクセス」**  
（概要）オープンサイエンスの潮流の中、研究データの公開が推進されており、国内の多くの研究機関でポリシーならびに情報基盤の整備が行われている。本発表では、DataCite 等 DOI の登録機関に格納されているメタデータから、日本の研究者の研究データの公開とそれらの利用状況について探る。それらを現在のポリシーや情報基盤等と照らし合わせることで、必要となる方策や支援について考える機会とする。
- **15:50～16:00 クロージング（今後の展開など）**  
※クロージングののち、対面での参加者限定で東海地区での RDM 推進に関して情報交換会を実施予定

## 主催

名古屋大学 学術データ基盤整備ワーキンググループ  
国立情報学研究所

## 問合せ

東海国立大学機構情報環境部情報企画課情報マネジメントグループ（学術情報担当）  
system@nul.nagoya-u.ac.jp